



◎ 素敵な保護者「一緒に行きましょう」

2020.1.14

月曜、朝から雨、天気予報に大雨注意とあった。二時半過ぎ、雨は強くなった。一年生の下校の時間、手伝えることがあればと、教室に向かってみた。保護者の迎えを待つ子、自力で帰る子、いろいろな子がいる。担任は教室で子どもたちみんなの世話をしている。

「そうか、バス停まで付き添っていけばいいか。これなら手伝える」

昇降口に保護者数人、自分の子どもが出てくるのを待っているのに気付いた。物静かな待ち方、佇まい、物腰、話し方…。その中の一人の保護者、自分の子どもが出てきた。さあ、帰ろうとなった場面…。そこに自力で帰る、他の子どもが三人やって来た。

その保護者はその三人の子どもに向かって、こう言った。

「私たち親子はバス停に行きますよ。他にバスに乗る子はいますか？ いるなら一緒に行きましょう。」

なんて素敵な言葉かけなのであろうか。大雨、帰りのタクシーは捕まらない。大雨の中、大急ぎで迎えにやってきた。早く帰りたい。そう思うのが普通である。なのに、他の子どもの心配までする。

そんな声掛け・姿勢に感激し、ちょっと心が温かくなる。「いい学校だな」…そんなことをこんな《些細なこと》から感じてしまう。そういう些細なことに感動する自分ですら、いつでももいたいものである。



☆From the Andromeda☆